

東北大学会計大学院に入学を希望される留學生の方へ

東北大学会計大学院 教授 木村史彦*

東北大学会計大学院（東北大学大学院経済学研究科 会計専門職専攻）では、高度な分析能力を有した会計専門家の養成を目指します。ここで、会計専門家には、公認会計士、税理士などの専門職、企業・官公庁の経理・財務において、指導的な役割を果たす者を含みます。また、幅広い視野を有した会計研究者の養成も視野に入れています。

この文書では、FAQ (Frequently Asked Questions) の形式で、会計大学院の概要を紹介いたします。東北大学会計大学院を目指される留學生の方は、本文書を読んで以下の点を確認してください。

- (1) 会計大学院の特徴（学位，教育システム）
- (2) 会計大学院のコースについての理解
- (3) 入試の枠組み

* 木村を指導教員として希望される方は本文書の最後のパートもあわせて参照してください

以下、本学の特徴をまとめておきます。

東北大学会計大学院の特徴について

Q: 東北大学会計大学院の特徴について教えてください。

A: 東北大学会計大学院は、日本の制度上「専門職大学院」に位置づけられ、研究者養成を中心とした従来の大学院（東北大学大学院経済学研究科 経済経営学専攻を含む）とは異なります（ただし後述のとおり、会計リサーチコースについては従来の研究者養成タイプの大学院に近いものとなります）。

修了者には会計修士（専門職）が授与されます（通常の日本の大学院で授与される、修士（経済学）、修士（経営学）といった学位とは異なります）。

特徴として、(1) 修士論文の提出が必修ではない（提出することも可能）、(2) 実務家教員による実践的講義を受講することができる、(3) 修了者（公認会計士コース）には日本の公認会計士試験（短答式試験）の一部科目が免除される、といった点をあげることができます。

東北大学会計大学院のコースについて

Q: 会計大学院のコースについて教えてください

A: 会計大学院には3つのコース（2020年4月以降）があります。公認会計士コースは、講義科目の履修のみで修了できるコースです。したがって、特定の教員の下で研究指導を受けることはなく¹、様々な教員の下で講義を受けること（コースワーク）が中心となります。このコースを修了すると、日本の公認会計士試験（短答式試験）の一部科目が免除されます（そのため、科目選択の制約はややきつく、44単位の修了必要単位数のうち34～36単位程度が選択必修科目とな

* 本文書は、東北大学会計大学院教授（財務諸表分析担当）木村が個人的見解をまとめたものであり、全ての会計大学院の教員が同様の考えを有しているわけではありません。また、日本人学生向けの資料は別にご覧いただけます。

¹ 研究指導教員は配置されませんが、学生1名につき1名の担任が設定され、履修指導等のサポートを行います

ります)。次に会計リサーチコースでは、リサーチペーパー（修士論文に相当）の提出が必須となりますが、科目選択は柔軟です。このコースは特定の教員の下で指導を受ける、従来型の大学院に近いといえます（一定の科目を履修すれば、公認会計士試験（短答式試験）の一部科目の免除が得られますが、相当ハードであるをご理解ください）。最後に2020年4月に、ビジネスアカウンティングコースが設置されます。このコースは会計リサーチコースと類似しておりますが、リサーチペーパーではなくワークショップ科目（課題解決型の科目）が必修となるコースです。

Q: 3つのコースと進路の関係について教えてください

A: 日本の公認会計士資格を目指す方は公認会計士コース、会計研究者（博士後期課程への進学）やコンサルタント等を目指し、論文（リサーチペーパー）をまとめた方は会計リサーチコース、そして、企業への就職を目指し、様々な知識を得るために、講義科目を中心とした受講（コースワーク）を視野に入れつつ、ディスカッション等の力を向上させることを目的とする方は、ビジネスアカウンティングコースを選択するとよいでしょう。

入学試験について

Q: 入学試験の科目を教えてください

A: 主に留学生が受験する入学試験には筆答試験を中心とする一般選抜と自己推薦入試があります²。一般選抜の入学試験の科目は入学希望のコースによって異なります。公認会計士コースの試験科目は会計学です。会計リサーチコースおよびビジネスアカウンティングコースの試験科目は会計学と口述試験です。

自己推薦入試は会計リサーチコースおよびビジネスアカウンティングコースへの入学を希望される方にのみ設定された試験です（自己推薦入試を通じて公認会計士コースに属することはできません）。自己推薦入試は、志願者が自ら選択して提出した学力評価の参考となる資料と口述試験に基づいて選考いたします。

Q: 東北大学大学院経済学研究科の経済経営学専攻と会計大学院を同時に受験することができますか？

A: 同時期に実施される入試について同時に受験することはできません。

Q: 入学試験の言語を教えてください

A: 一般選抜の筆答試験（会計学）は全て日本語で出題されます（日本語での解答が求められます）。また、口述試験についても全て日本語によって実施されます。

Q: 一般選抜の筆答試験（会計学）に向けての対策を教えてください

A: 会計学については、簿記、原価計算、財務会計、管理会計の基礎的な問題を出題しますので、

² 他に、3年次学生を対象とした「3年次学生を対象とする試験」、東北大学経済学部在籍者を対象とする「東北大学経済学部生を対象とする試験」がございます。詳細は、東北大学会計大学院 WEB サイトの入学案内 (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/kaikei/nyugaku/index.html>) をご覧ください。

学部レベルの講義をしっかりと受講されるとよいでしょう。5年分（10回）の過去の入試問題は下記サイトより無料で入手可能です。

<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/kakomon.html>

また、年に2回（7月、11月）、入試説明会が実施され³、現役学生（留学生を含む）と懇談することができますので、そうした機会をご活用ください。

その他、日本の簿記検定試験（<https://www.kentei.ne.jp/bookkeeping>）の勉強をすることも有意義でしょう。とりあえずは2級レベルを目指されるとよいかと思えます。

Q: 口述試験に向けての対策を教えてください

A: 口述試験においては、研究テーマを設定とそこに向けての研究（学習）計画、そして、一定水準の語学力（コミュニケーション能力）が確認されます。会計の基本書を精読する、経済新聞を読む、会計関連の雑誌などを読む、そして、計画書をまとめて、周囲の方に読んで頂く、さらに模擬的な面接すること等が対策になります。

Q: 大学を卒業しましたが（または、卒業見込みですが）、大学院入学（受験）前に学部研究生となることはできますか？

A: 可能です。以下の経済学研究科の国際交流支援室のサイトをご覧ください（国際交流支援室を通じて申し込んでいただくこととなります）。本会計大学院では日本語での講義が中心となるので、6ヶ月～1年程度、研究生として受験対策および日本語のブラッシュアップをしてから、入学することは極めて有用です。学部研究生となった場合、東北大学の日本語課程を通じて効率的に日本語の勉強することができます、さらに経済学部の講義科目の履修が可能となります。

学部研究生の募集は経済学部で一括して実施されます。国際交流支援室（下記）のサイトをごらんください。そこでは、大学院受験の準備を行うため所定の教育と生活上の指導のみです（研究指導は行いません）。

国際交流支援室 <http://www.econ.tohoku.ac.jp/~KKS/prospective/program/>

授業について

Q: どんな科目が開講されますか？

A: 会計大学院のWEBサイト

<http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/kaikei/curriculum/index.html> 参照してください。

Q: 授業の使用言語を教えてください

A: 会計大学院の講義は英語によるコミュニケーション科目（4科目）を除き、全て日本語によっ

³ 日程については、6月および10月頃に本会計大学院WEBサイト（<http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/kaikei/index.html>）で日程のご案内がございます。

て実施されます。特に、財務会計系、法律系の科目では、相当程度に高い水準の日本語の語学能力が求められます（日本語検定 N1 レベルの実力が必要となります）。

Q: 専門職大学院としての教育の特徴について教えてください

A: 会計大学院は、一般的な研究型大学院よりも、教育活動が重点的に行われます。したがって、研究型大学院よりも、取得しなければならない単位数が多いですが、それによって会計の最先端のトピック、ケーススタディを学修することができます。

修士論文（リサーチペーパー）について

Q: 会計大学院では修士論文の提出は必修ですか？

A: 公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースでは必修ではありません。会計リサーチコースでは修士論文に相当するリサーチペーパーが必須となります。

Q: リサーチペーパーの執筆言語について教えてください。

A: 日本語または英語です。

大学生活について

Q: 会計大学院に留学生はいますか？

A: 年度によって異なりますが5名程度の学生が在籍中です。

Q: 留学生向けの支援はありますか？

A: 会計大学院を含む、東北大学大学院経済学研究科による留学生向けの支援は、全国的に見ても充実しています。その拠点となるのが国際交流支援室となります。下記サイトをご参照ください。

<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~KKS/prospective/program/>

就職（進路）について

Q: 留学生の会計大学院修了後の進路について教えてください

A: 日本企業に就職するケース、出身国の企業に就職するケースがあります。日本の会計士資格を取得される方もいます。

Q: 東北大学大学院経済学研究科（あるいは他の大学院）の博士後期課程（ドクターコース）への進学は可能ですか？

A: 会計リサーチコースに所属し、リサーチペーパーが高い水準にあると認定されれば東北大学大学院経済学研究科博士後期課程に「進学」することが可能です。他の大学院の博士（後期）課程への編入については、その大学院で受け入れられれば可能です（日本の大学院については、全て認められると考えられます）。

研究テーマについて

Q: 研究テーマについて教えてください

A: 会計リサーチコースを目指される方は研究テーマを有されることは必須です。入学以前に設定された研究テーマを、入学後も継続できるか否かはケースバイケースですが、適切な研究テーマを設定できる能力は非常に重要です。一方、公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースを目指される方は、必ずしも研究テーマを設定する必要はないですが、現在、会計（財務、会計と関連したマネジメント）においていかなる問題があるのか？そして、そうした問題をふまえ、ご自身がどのような会計専門職になりたいのか？そしてそのために、どのようなことを学習・研究しなければならないと考えているのか？について、明確に意識することが重要です。

木村を指導教員として希望される方へ

木村を指導教員として希望される方は、これまでの文書をふまえ、以下の点をご確認ください⁴。まず、以下のいずれに該当するのかについて、確認してください

共通事項

- 研究指導は日本語となります（原則として日本語検定 N1 レベルを有していること）
- 論文の執筆は日本語または英語となります

入学の前提となる知識

- 学部レベルの財務会計（学部研究生として修得することが可能）
- 学部レベルの統計学・計量経済学の知識（学部研究生として修得することが可能）
- 英語文献を読める能力

A 博士後期課程（ドクターコース）への進学を志望する方

会計リサーチコースに入学し、リサーチペーパーを提出、そして、そのリサーチペーパーが高い水準で合格することが、後期課程進学の原因となります。

また、後期課程での指導を視野に入れた場合、指導可能なテーマは、以下の通りとなります

- earnings management（利益マネジメント・利益調整）に関する実証研究
- earnings management に関する国際比較研究（実証研究）
- コーポレートガバナンスと会計情報
- 会計情報の価値関連性研究

実験研究、数理的なモデルと適用した研究、規範的な研究については対応できません。

また、後期課程での研究テーマについては、入学後に相談しながら決定していきます。

B 会計大学院の公認会計士コース or ビジネスアカウンティングコースを志望で、博士後期課程への進学を希望しない方

会計大学院修了後、企業等への就職を志望している方となります。

履修面での指導を行います。特に研究指導をすることはございません（公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースはコースワークのみで修了可能なコースです）。

C 会計大学院会計リサーチコースを志望で、博士後期課程への進学を希望しない（修了後、就職等を志望している）方

A での研究テーマよりは広いテーマでのペーパーに対する指導が可能です。財務会計、財務諸表分析に関連するテーマでしたら指導いたします。

⁴ 木村のプロフィール、業績等は、<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~fkimura/> をご参照ください。